

星を伝え歩いた男

朝野北水

～江戸時代の星への興味～



凡 例

- この図録は、平成29年9月16日から10月29日までを会期として開催する長野市立博物館第60回特別展「星を伝え歩いた男、朝野北水～江戸時代の星への興味～」の展示図録である。
- 本書の掲載順と展示の順序は必ずしも一致しない。
- 会期中に展示替を行うため、図録掲載のものが会場に展示されていない場合がある。
- 本書掲載資料の写真は、所蔵先から借用した写真のほか、次の機関より提供いただいた。
飯田市美術博物館(p98-99)、真田宝物館(p46-47,49,91-92)。
- 本書掲載資料の写真の一部は、大井川茂兵衛氏、加藤成文氏及び株式会社インフォマージュに撮影を委託した。
- 展示の企画は当館学芸員 陶山徹が担当した。
- 本書の執筆は陶山と研究員 斉藤秀樹があたった。
- 本展示に関連して、企画、資料収集、写真撮影、写真提供などで多くの個人並びに機関から援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。

開催にあたって

江戸時代は平和な期間が長く続いたため、多くの文化が花開きました。加えて西洋文明の流入により、科学技術は大きく進歩しました。この時代、人々はどんな気持ちで星空を見上げたのでしょうか。暦や測量などの実用的な観点から、または、突如現れる彗星や日食などの天文現象への好奇心から、人々は様々な形で星空に関心を持ったことでしょう。

江戸時代、各地を歩いて人々に星を教えた男がいました。彼の名は朝野北水。全国を遊歴し、人々に星について教えていたようです。その足跡は高遠や松代など信州各地にも残っています。彼の教えた内容はわかりやすく人々の興味を引くものでした。本展では朝野北水の講義内容を入口として、江戸時代の人々の宇宙との関わりを探ります。彼が生きた時代は、高精度な暦の作成、伊能忠敬による全国測量、国産初の反射望遠鏡の製作など日本の天文学の転換期でもありました。この時代の天文学の状況についても紹介します。

平成29年9月

長野市立博物館

第1章 天文遊歴家朝野北水の教え

目次

開催にあたって	3
第1章 天文遊歴家朝野北水の教え	5
第1節 北水先生ってどんな人	6
第2節 10日でわかる天文学	11
第2章 星座と惑星	39
第1節 中国星座の世界	40
第2節 惑星のモデル	48
第3章 暦	51
第1節 観象授時	51
第2節 改暦と西洋天文学	54
第4章 測天量地	63
第1節 伊能忠敬の全国測量	63
第2節 緯度と経度	67
第3節 地球の大きさ	72
第5章 望遠鏡の登場	75
第1節 国産望遠鏡の登場	76
第2節 望遠鏡で見た宇宙	85
第6章 宇宙への関心in信州	93
第1節 天体観測の記録	94
第2節 彗星観察	101
第3節 天体の動き	106
第4節 松代藩のコレクション	109
おわりに	114
主要参考文献	115
謝辞	116

江戸時代の終わりごろ、全国を遊歴し天文を教えて歩いた男がいました。その名を朝野（浅野）北水（1758-?）といった。北水が生きた時代は、西洋の科学技術の影響が強くなってきた頃です。

朝野北水の経歴は詳しくわかっていません。前半生は戯作者として黄表紙を書いており、後半生は天文遊歴家として各地を訪ねて歩いていました。

北水に関連した資料は全国各地に残されています。特に長野県には多く残されており、松代、小諸、伊那、高遠、飯田には、北水の影響が見られる資料があります。ここでは、それらの資料を中心に朝野北水の足跡、そして、彼が伝えた天文学の内容を紹介します。

